



合同イブニング講演会

共催 環境科学・防災研究センター
重点研究プロジェクト



「希土類に関連した再生可能エネルギー材料科学およびサステイナブル材料開発」

日時：平成22年12月14日(火)16:30～19:15

場所：室蘭工業大学A304教室（座席は先着順）

参加費無料

第一部 16:30～17:45

未来社会の担い手を育てる

—「持続可能な開発のための教育(ESD)」とは何か—

日本ユネスコ国内委員会 委員 草原克豪

対象：小中高教職員、小中高生父兄、市民、本学教職員、学生

2005－2014年は、「国連ESDの10年」に指定されている。ESDとは、「持続可能な開発のための教育」である。これまでもすでに多くの学校において、国際理解、環境、多文化共生、人権、平和、開発、防災などなどの教育が実施されている。ESDは、これらの取組とどう関係にあるのか。何が違うのか。その狙いは何か。

ESDの考え方に沿って、新しい学習指導要領には「持続可能な社会の構築」という文言が盛り込まれた。ESDを学校現場に浸透させるために、文部科学省はユネスコスクールの活用を推進している。具体的には、これを当面500校程度にまで増やし、全国の小・中・高等学校におけるESD推進の拠点にしようという計画である。ユネスコスクールとはどういうものか。ESDで教育の何が変わるのか。

持続可能な未来社会の担い手を育てるために、今、学校や地域社会は何をすべきか。

第二部 18:00～19:15

「未来材料：レアメタルやレアアースってなに」

東京大学生産技術研究所 教授 岡部 徹

対象：小学校高学年以上、市民、本学教職員、学生

社会が発展し、生活が豊かになれば、高性能の電子機器が数多く使われるようになる。日常社会では直接目にするものは少ないが、電子機器には多くのレアメタルが使われており、私たちは多種多様のレアメタルに囲まれて生活している。いまやレアメタル抜きには、私たちの生活は成り立たない。また、ハイテク製品だけでなく、省エネにもレアメタルは不可欠である。たとえば、ハイブリッド自動車の高性能モーターや蓄電池、太陽光発電のパネルや制御器などは、レアメタルの塊と言っても過言ではない。社会が発展すればするほど輸出制限など、懸念事項も多い。海外ではレアメタルの採掘や製造に伴い、深刻な環境破壊が進んでいるところもある。

本講演では、レアメタルの現状と課題について概説し、レアメタルに対する誤解や偏見、さらには、日本では知ることの出来ない裏の問題についても紹介します。



略歴 1941年北海道生まれ。東京大学教養学部卒業。1967年から1997年まで文部省に勤務。その間、コーネル大学経営行政大学院留学、ユネスコ本部勤務を経て、文部省大臣官房人事課長、高等教育局担当審議官、生涯学習局長を歴任。1997年から2009年まで拓殖大学北海道短期大学学長・拓殖大学副学長。現在は拓殖大学名誉教授。日本ユネスコ国内委員会委員、日米教育委員会(フルブライト)委員も務める。主な著書に『近代日本の世界体験—新渡戸稲造の志と拓殖の精神』(小学館スクウェア、2004)、『日本の大学制度—歴史と展望』(弘文堂、2008)、『「徳」の教育論』(共編著、芙蓉書房出版、2009)、『大学の危機—日本は21世紀の人材を養成しているか』(弘文堂、2010)。



略歴 1993年に京都大学大学院工学研究科博士課程修了後、マサチューセッツ工科大学に留学。1995年東北大学素材工学研究所助手、2001年より東京大学生産技術研究所助教授、2009年より同所教授。プロセス技術がレアメタルをコモンメタルに変えることを夢見て、チタンなどの新製錬技術の開発を行っている。最近では、ニオブ、タンタル、スカンジウム、貴金属などのレアメタルやレアアースの製造プロセスや新規サイクル技術、環境技術の研究も行っている。本多記念奨励賞、井上研究奨励賞、市村学術賞・功績賞、本多記念奨励賞、日本金属学会功績賞、日本金属学会論文賞、資源・素材学会論文賞、日本チタン協会技術賞等を受賞。

ホームページ：<http://okabe.iis.u-tokyo.ac.jp>

問合せ先：環境科学・防災研究センター 岩佐達郎 (TEL:0143-46-5661)

重点研究プロジェクト「希土類」：永田正一 (TEL:0143-46-5612)